



デザイン：石ノ森 章太郎
生涯学習のマスコット“マナビィ”

NO.262

宿井地区にたった1本だけ残る『宿井のハゼの木』は樹齢250年の古木、毛利藩が推進した『防長四白政策』の生き証人として、今でも秋には、たわわに実をつけています。

NHKの大河ドラマ『毛利元就』が放送された平成9年11月、「やるなら今年しかない…」と江戸時代の方法でハゼの実からロウを作るグループ『ハゼの実ロウ復活委員会』が発足、毛利の特産を田布施の特産に…と、ハゼの実ロウ復活作戦がスタートしました。

まず、昔の文献などを参考に「立木式しぼり機」を手づくり、近くの山に出かけてハゼの実採取、選別…と、何もわからないままのスタートでした。それでもなんとかロウの抽出に成功、大河ドラマの最終回が放送された12月中旬の日曜日、初めて火を灯しました。

小学生の郷土学習

「子どもたちに体験させたいのだが…」と、宿井のハゼの木の近くにある城南小学校から連絡が入ったのは翌年の春でした。6年生の児童に一連の工程を体験させ、郷土の歴史や文化を学習させたいというものです。その年から始まった『体験学習』は、会員が先生になって採って来たハゼの

先日催された『たぶせハゼの実ろうそくまつり』の灯火は、幻想的な佇まいに、毎年見惚れてしまいます。そのまつりの発端は、ハゼの実ロウ復活委員会事務局長である岡部正彦さんの文化伝承の熱い思いからでした。

復活作戦のスタート



戒ヶ下自治会 岡部 正彦

実の選別からしぼり機に掛けてロウを絞り出すまでの作業、おみやげに渡すカップ入りキャンドルに子どもたちは大喜びです。先人たちの『ものづくり』の大変さを身をもって体験した子どもたちは物を大切にする気持ちも芽生えたようです。この体験はそれ以来もず〜っと続いて今年で16回目、最初にやって来た子どもたちは27才の若者、歴史を感じさせます。この体験学習は、城南小学校のほか、田布施西小、麻郷小でもやってきています。

たぶせハゼの実ろうそくまつり

平成13年に開催された山口きらら博では移動式しぼり機を会場に持ち込んで約250人が「ロウしぼり」を体験しました。その反省会で女性会員から「田布施でもハゼの実ロウをアピールするイベントをやったら…?」という意見が出ました。なるほど、地元の人に知ってもらうのが一番、と始まったのが田布施川の夏まつり『たぶせハゼの実ろうそくまつり』(ハゼろうまつり)です。対岸に灯す「千のあかり」や「大文字」、芝生広場をキャンパスに見立てて描く「巨大ろうそく絵」、ろうそくのあかりに包まれる「川辺のステージ」、滋賀県高島市から毎年来てくれる和ろうそく職人大西明弘さんの「和ろうそく手掛け実演」…と、『静かなまつり』は13回目となった今年も多くの人に『川辺の夕涼み』をお楽しみいただきました。



人格の完成をめざして

東田布施小学校 校長
河村 隆

教育基本法第一条に、教育の目的は人格の完成を目指すことであると明示されています。差別のない、平和な社会を築くために、このことがとても重要になってきます。

さて、本校の教育を一言で言うると「金声健児の育成」です。この「金声」とは、中国の古書「孟子」の一節、「金声玉振」から引用されたもので、「才知と人徳を兼備し、優れた人物として大成する」という意味です。明治11年に、山口県から「金声小学」の校名をいただいたことに始まります。この「人徳を備える」ことが金声健児の人格形成の基盤となっています。

その「金声健児の育成」を支えているのが昭和32年度から始まりました「立志の教育」です。6年生が卒業するにあたって、将来自分が社会に役立つ人となるための誓い(志)を立て、巻紙に一人一人が筆でしたためていきます。この誓いは、卒業証書授与式の場合で一人ひとりが力強く述べるとともに、「万

志録」として永く学校に留め置かれます。

さらには、30年前から実践している伝統の教育が二つあります。一つは、元神戸大学教授の森信三先生が提唱された「立腰教育」です。腰骨を立てることで、強い精神力や主体性、毅然として行動できる態度を養うことができます。もう一つは、これも同じく森先生の箴言しげんであります「場を清め 礼を正し 時を守る」です。これは、社会で生活していくための秩序であり、立派な社会人であるための守るべき指針として、先生が私たちに示されたものです。具体的に「は、ごみを拾う、はきものをそろえる、気持ちのよいあいさつをする」、「はいつ」と大きな声で返事をする、廊下を静かに歩く、人に親切にする、時間を守るなどです。本校では、この「場を清め 礼を正し 時を守る」を基盤として、豊かな心を持ち、規律ある行動ができる児童の育成に取り組んでいるところとです。

以上の伝統をしっかり受け継ぎ、「金声健児の育成」に努めています。



第168回

サークルウォッチング 茶道(裏)教室

城南公民館



茶道には、季節に応じたお点前が、何通りもあることをご存じでしょうか。

今月は、「洗い茶巾」という夏のお点前のお稽古中に茶道(裏)教室を訪ねました。

「洗い茶巾」とは、茶巾を絞る時のしずくの水音を強調してたてることで涼を感じるというものです。日常生活での水音は気に留めることもありませんが、お点前で聞く水音はとても涼やかに聞こえるから不思議です。

また、「葉は蓋(ふた)点前」は、蓮の葉の上に水滴を落とすと葉の上でころころと玉になり転がる様が、とても爽やかで涼しく神秘的に感じるとのことです。

一人一人のお稽古では、お点前中に、先生がお茶碗や茶席に飾つてあるお花、お点前の所作についてやさしく説明してください、茶道の奥深さを感じました。

教室の皆さんも、日常使わない会話や細やかな動作が自然に身につくので勉強になり、何よりお稽古も笑いの中で楽しくひとときをすごせるのが良いと話してくださいました。



私も思いがけないおもてなしで、お茶をおいしく頂きました。お茶は疲労回復にもなるそうです。毎年、公民館の文化祭で設ける茶席で、皆さんも日常を離れ、心に潤いを入れてみてはどうでしょうか。

- 講師 岡本 宗栄さかえ
- 日時 第1・3月曜日 午前9時～正午
- 場所 城南公民館和室
- 代表者 竹内 和子

☎53・0554